

8月20日(金曜日)

ドル/円

引き続き日銀の金融緩和期待が鍵

19日(木)の主な推移

チャート: 30分足 19日(木)朝6時 ~ 20日(金)朝6時

NYダウ平均

10271.21ドル
(-144.33ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.5750%
(-0.0625%)

NY原油先物

74.43ドル
(-0.99ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

未明に産経新聞が「日銀が追加の金融緩和策を検討する」と報じたことや、「本日、日銀が臨時の金融政策決定会合を行うのでは」との観測が広がったことを背景に、朝から円売り優勢の展開となった。正午過ぎに「日銀が本日臨時会合を開く可能性は低い」と報じられると円売りは一服したが、依然として明日以降に臨時会合開催の可能性が残る中、日本株引け後に欧州勢が円売りで参入したことで、85.92円まで円安が進行した。

②

21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が50万件と市場予想の47.8万件を上回り、2009年11月以来の高水準となるなど、米国の雇用環境の弱さを示す結果となった。これを受け、為替市場ではドル売りが強まり、ドル/円は下落した。

③

23時に発表された米8月フィラデルフィア連銀製造業景気指数は-7.7と、前回の5.1から7.2まで改善する、という市場予想に反して2009年7月以来1年以上ぶりに景気判断の境目となる「0」を下回った。これを受け、リスクに対する警戒感が急速に高まり、NYダウ平均は下落し、米2年債利回りは過去最低を更新するなど、米国債利回りは低下。こうした中でドル/円では急速にドル安・円高が進み、84.89円の安値をつけた。しかし、日銀の追加緩和への思惑がくすぶる中で85円割れの水準では底堅く、すぐに反発した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 84.70- 86.10円

本日は予定されている経済イベントもなく、手掛かり材料難の一日。主要国株価や米国の国債利回りなどに連れての動きが予想される。

ただ、引き続き日銀の追加緩和策や臨時の金融政策決定会合に関する報道には注意したい。これらに対する期待が高い間は、ドル/円が昨日のように85円割れの水準まで下落したとしても、すぐに値を戻す公算が大きい。また、仮に「本日、臨時の金融政策決定会合が行われる」という報道があれば、追加緩和への期待がさらに強まり、大きく円売りに傾く可能性が高い。実際に追加金融緩和策が発表された場合は、その中身(市場の想定以上に緩和的であるかどうか)についてが材料視されよう。期待ほど緩和的でない内容の場合、急速に円高が進むこともあり得る。(ジェルベズ)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/20(金)			なし		

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com